

## 自ら学び、協働的に知を創る児童の育成

東京都千代田区立和泉小学校 主任教諭 竹下 佳余

### 小学校5年 社会科 未来広告ジャパン!

#### 番組の特徴

日本の国土や産業などに関して、子供たちにあまり馴染みのない事柄でも、身近に感じさせてくれる番組である。取材の過程での発見や、結果を端的にまとめたCMが、子供たちの問題意識をくすぐる。

#### 研究の概要

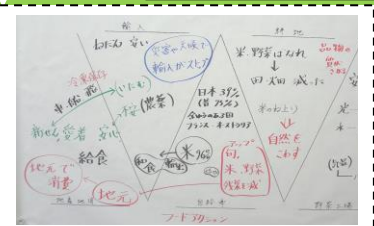
協働的に知を創るには、「探究力」「自己肯定感」「調整力」「コミュニケーション力」の育成が前提となる。そこで、「未来広告ジャパン!」を活用し、社会科の目標の達成に加え、これらの力を段階的に培うことをねらいとした。視聴後に思考ツールで情報を整理し、自力解決後に友達との情報交換を通して課題解決に臨むスタイルは、自発的な学びや多面的な思考を促し、協働学習の効果を高めつつある。

#### 授業デザイン

単元：これからの食料生産

目標：日本の食料生産が抱えている問題を調べ、食料を安定的に確保する必要性やこれからの食料生産のあり方について考える。

導入	総合的な学習の時間に取り組んできた「食に関する問題点」を(魚チャート)で整理し、「食物自給率」という新たな問題に光を当てる。
番組視聴	第9回 日本の食料自給率は低いままでよいか
感想交流	自分の考えを(KWLチャート)にまとめ、「知っていること」「学んだこと」を発表。
課題把握	学習課題「日本の食料生産の現状と問題点、解決策について考えよう」について「知りたいこと」を整理・分類→課題作り→課題別に学習グループ(2~3人)編成。
自力解決	「調べ学習の部屋」と農林水産省HP(のみ)を活用し、「担当する課題について調べる。
情報共有	5つの課題「自給率」「食物の輸入」「地産地消」「野菜工場」「耕地」について発表する。
まとめ 【協働的な知】	発表内容を関連づけて(Wチャート)に整理し(教師主導)、結論と自分の考えをまとめる。



#### 番組や関連動画クリップの活用意図

##### 明確な課題意識をもつための番組視聴

- 番組のテーマが、私たちの生活とどのように関係しているのか、現状や問題点をとらえる。
- 追究したい課題を決め、協働的な学習の進め方とゴールをイメージする。

##### 自力解決と発表準備のためのクリップ活用

- 「調べ学習の部屋」を活用した学習の流れ 自己の課題に合った情報を探す(キーワード検索) →自力解決→グループ交流→発表→知の構築。
- 主張点の根拠としてクリップ等を提示する。

#### 授業デザインにかかわる教師の工夫

##### 思考ツール(チャート)の活用

**KWE**…現時点での知識・思考を整理→課題の決定  
**魚**…キーワードに付随する内容を掘り下げて考える→課題の決定 or 学習計画 or 構成

**W**…協働的な知の構築

##### 他教科との連携

総合：食に関する問題点〔安全性、食品ロス、栄養のバランス〕→**社会科(本実践)**→国語：提案文→総合：食について見つめよう(個人研究)

##### 子供の学力の分析→授業計画(習得型→探究型)

探究型及び協働的に学ぶ授業で学習効果を上げるために、以下の学力を段階的に育ててきた。

**課題発見力**→**探究力**→**自己肯定力**(本実践の重点)  
 →**調整力**→**コミュニケーション力**

#### 生き生きと学ぶ子どもの姿

##### 子どもの自己評価から

- 自分で課題を決めることができてよかった。友達の課題も調べたい。
- みんなで会社をつくり調べ学習ができて楽しかった。

##### 評価シートから

- 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができた。
- 番組や資料から(学習課題に沿って)必要な情報を読み取ることができた。

##### 同僚の評価

- 社会が苦手な子供でも課題がとらえやすく、最後まで意欲的に調べたりまとめたりしていた。



#### 実践を終えて〈行動宣言〉

協働学習における個々の役割を明確にしたことで、課題を追究する意欲と、自己の調査結果に対する責任の自覚が芽生えた(探究力 自己肯定力)。次の単元「自動車工業」では、「販売者になって車の広告を作ろう」をテーマとした。自己の担当部門の情報収集とグループでの作戦会議を通して、共通の目的に向けて情報を取捨選択し、主張点を絞ることができた(調整力 コミュニケーション力)。今後は、番組活用ならではの情報交換の持ち方を工夫し、比較・関連づける作業を協働的に進め結論を導き出す力を更に伸ばしたい。